

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウスみずほ館		
所在地	江別市あけぼの町51番13		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成22年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北海ハウスみずほ館の理念である「笑顔で・明るく・やさしく」を基本として、入居者と職員が昔の大家族のように3世帯同居(20代・30代の介護員は孫、40代、50代の職員は子供)で、一緒に調理をしたり、後片づけをしたり、縫い物をしたり、ゲームをしたり、テレビを見たり、掃除をしたり、散歩に行ったり、会話をしたり、昔の知恵を借りたり等特別なことをしなくても普段の生活が自然に営むことができる、他愛のないことだけと一緒に笑える、悲しむ、怒るという生活が日々過ごせる。家族、友人、業者の方々が来たとき、ほっとするような、明るいホームだなと感じることができます。職員の挨拶も明るく元気でホーム全体が生きています。料理は食材にこだわり(国産の食材で新鮮)皆さんが美味しく安心して食べることができます。入居者の皆さんは、この食事は本当に美味しい、毎日が楽しみとおっしゃいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191000082&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191000082&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年7月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 北海ハウスみずほ館」はバス停から近く、見通しの良い緑豊かな環境に立地している。建物は現場の視点から造られており、居室ドアの色を交互に変えたり脱衣場を工夫するなどして、利用者目線での配慮が為されている。開設1年に満たない当事業所は当初から看取りケアを目指し、地域の医療機関と関係を築いている。利用者の暮らしを支えるため市担当者との緊密な情報交換の中で運営の安定を図り、町内会との関係を築く中で住民の協力を得ての災害対策を進めている。管理者は開設準備から運営に関わっており、職員の育成にも熱心に取り組み、個別ケアなどの方針がケアの中に行き届いている。利用者は近くの幼稚園の園児やケアハウス利用者との交流、また週1~2回の多種のボランティア訪問による催しなどで外部の人との交流を楽しんでいる。今後は家族に適宜な情報提供や利用者の暮らしが常に分かるような方法で、家族と一緒に利用者が楽しく過ごせる環境づくりを積極的な姿勢で進めている。職員は理念に沿って常に明るい笑顔で利用者に接しているが、静かな雰囲気での対応も見られ、今後、期待できる事業所である。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム北海ハウスみずほ館の理念である「笑顔で、明るく、やさしく」は、毎日の朝礼で介護員が言ったり、管理者が言ったりして共有をしている。	法人事業所の共通理念を要所に掲げ、その内容を分かりやすい言葉にして当事業所の理念として据えているが、地域住民との関係性の内容が盛り込まれていない。朝礼や職員会議で理念を確認し、笑顔を絶やさないケアを実践している。	基本理念に沿って地域密着型の視点を盛り込んだケア目標などを全員で作り上げ、当事業所としての運営方針を深めるような取り組みに期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あけぼの町内会に加入して、地域のゴミ拾い、資源回収等に参加している。今年は、町内会の行事に入居者と参加する予定である。又、向かいのケアハウスのぞみの夏祭りに参加することになっている。あかしや幼稚園の園児とも交流予定である。	回覧板や運営推進会議での情報を得て、町内会の活動や焼肉パーティー行事への参加を予定している。ケアハウス利用者や幼稚園児との交流を進め、ボランティア訪問による週1～2回の多量の催しなどで、外部との関わりを積極的に計画している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族の方もまだまだ認知症の方の理解をされていない方もいるので、来所したときは入居している方の状況を伝えながら、認知症のことも話をして理解を深めるように意識している。又相談に来た方にも悩みを受け止め、病気の説明とアドバイスをするような体制である。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を設け、利用者の状況、サービスの実態等を報告、話し合いを設けている。特に今回はグループホームの火災についての関心が高く話し合いを行い、町内会の会長さんより町内会と一緒に訓練もする必要があるとアドバイスをうける。	2ヶ月ごとに運営推進会議を開き、事業所の報告の他に防災対策や制度について話し合い、町内会から花壇づくりに花の寄付の申し出などもあり、意見などは参考にしている。会議には家族の代表が参加しているが、運営推進会議の意義など全家族に理解されるまでには至っていない。	会議の案内や議事録を家族に送付するなど、さらに家族が会議に参加しやすい工夫などを通して、運営推進会議への理解が深まり、内容の充実と共に有意義な会議となるよう期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、情報交換、相談、実情等連絡をとり協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者は開設準備の段階から頻りに連絡や訪問を通して担当者との関係を築いている。毎月数回の訪問やメールなどを通して担当者に確認したり相談するなど積極的に関わり、常に相談や情報交換をしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成21年11月16日開設のグループホームであり、現在まで身体拘束、玄関施錠は行っていない。	職員会議や朝礼で身体拘束の弊害について話し合い、介護拒否などがある時も見守りを強化し、身体拘束にならないケアを努力している。玄関に音の鳴る鈴を付けて出入りに注意し、日中は鍵をかけないで利用者が自由に行動できるように見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について話し合いをもち、自分がされた場合どう感じるかを含めて話し合いをしている。今後は外部の研修に参加する体制を設けたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在権利擁護の制度について完全に理解している職員は一部なので、今後は外部研修の機会と内部研修で理解するように努める。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者が完全に契約の締結、解約の書類関係について理解・納得は難しいが、家族に対しては、十分な説明を行い、理解、納得をして頂いている。疑問点は、いつでも答えられるようになっている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設けると共に、日頃から利用者、家族の意見は丁寧に傾聴し、運営委員会に伝え、運営にも反映させている。</p>	<p>管理者が中心となって家族の来訪時や電話などで丁寧な報告を心掛け、また毎月の請求書を送る際には手書きのメッセージを同封している。意見などは朝礼や会議で対応を話し合っているが、開設1年に満たない状況で家族との情報共有が万全とはいえない。</p>	<p>定期的な事業所だよりの発行により、利用者の普段の暮らしや行事予定などが随時分かるような工夫に期待したい。また家族への報告も職員と内容を共有して伝えたり意見をもらうなどして、家族の視点からの関係づくりが深まるような取り組みに期待したい。</p>
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営に関する職員の意見や提案はあまり聞かれないが、今後は職員会議、打ち合わせ等で聞くようにして反映させたい。</p>	<p>毎月「職員会議」の前にリーダーが職員の意見を集め、ケアの提案や業務の改善について意見交換ができるように準備をしている。年に2回以上管理者との個人面談がある中で、職員の考えていること、また管理者が伝えることで全体の一体感が得られ、運営に良い影響をもたらしている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職場の環境を良くし、職員が働きやすい環境づくりを意識している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>北海ハウスみずほ館は未経験の介護員も多く、先輩と共に一人ひとりの力量に応じて教育を心掛けている。職員には、法人内外の研修を受ける機会を確保するように意識している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>江別市内のグループホームの交流会の打ち合わせ、委員会に参加をしてネットワークづくり、交流する機会を作り、サービスの質を向上をめざし取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>不安な事や要望を聞き、入所後も安心して、生活して頂けるよう入所前に面談を行い、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族とは、何度も面談を行い、ご家族の思いや要望を聞き、安心してサービスが受けられ、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームに見学へ来られた際は、他のサービスを利用中の方、御自宅ですと過ごされてきた方等、ご家族が今、困っている事等聞き、どのようなサービスを必要としているのかを考え、その方にあった支援が受けられるよう対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活では、出来る事はお手伝いして頂き、食事の準備や茶碗洗い、片付け等、自分の役割、分擔をし、生きがいを見出している。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様の希望、要望を取り入れた支援や、家族が来所された際、御本人の日常生活の様子等を、伝えたり、行事やお誕生会に来て頂くなど、良好な関係を作っている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>自宅にいた時と同様に編み物をされる方、また職員と共に折り紙や塗り絵等の支援をしている。出来た作品は、ホームの壁に飾り、皆さんに見て頂いている。</p>	<p>自宅への送り迎えや墓参りなどは家族の支援で行われているが、馴染みの店での買い物、美容院、友人宅への外出は職員の支援で継続している。知人の来訪時には昼食を提供し、交友が深められるように配慮している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常生活では、状況に応じて職員が介入し、他者との会話等、出来るように支援している。行事のおやつ作りや外出レク、誕生会など実施し、利用者同士の交流が深まるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が家族から相談があった場合や、本人の状況などを把握し、相談や支援に努めている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時、利用者及び家族に意向を伺っている。ケアプランが達成できるよう支援し、利用者が、希望の生活を送れるように努めている。	センター方式のアセスメント情報やエコマップ(本人を中心とした関係)づくりから、利用者の暮らしや思いを把握している。発語が難しい場合は対応を試みて表情などから把握し、職員間で情報を交換している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、必要関係機関等に聞き取りを行い、日々の生活場面にて、本人、来所家族などの会話から情報収集に努めている。本人、家族の協力を得て、フェイスシートの作成をし、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活において、本人、家族から、要望を聞き、一日の生活リズムの把握、体調管理をし、一人ひとりが役割を持って生活が出来るように支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時、利用者及び家族意向を伺っている。ケアプランが達成できるよう支援し、利用者が、希望の生活を送れるように努めている。	家族、利用者の意向を聞き、関係者の情報や医療情報を基に介護計画を作成し、3ヶ月～6ヶ月ごとに見直している。個人記録ではプランの実施や課題などを色分けして記録し、現状に即した計画に反映できるように工夫されている。担当者会議には家族にも呼びかけて利用者の状態をモニタリングし、目標の評価を全員で行い次の計画に繋げている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、状態の変化等を記載し、職員間で、情報を共有する。さらに、ケア計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎を個別に行っている。希望があれば、コンサート観劇などの外出同行、送迎にも応じている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、ホームの役割を伝える。安全面では、消防の協力を得て、防災、救命の研修を行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への受診時や訪問診療時に本人の訴え、家族の意向を伝え、かかりつけ医の適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院と各科医療機関と連携し、職員の看護師が中心となって受診支援を行っている。主に事業所の職員が受診に同行しそれぞれの主治医と連携を密にして、結果は家族に報告し、朝礼や記録で職員も受診の結果を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者からの訴えや変化があれば、迅速に看護職員に伝え、受診時や訪問診療時に適切な看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、緊急に対応できる様に、脳外科、整形、内科と提携しており、病院関係者と情報交換をしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行きながら十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と重度化した場合の説明、同意書を頂いている。、終末期のあり方の説明をしている。実際昨年度化の方がおり、家族、主治医と連携をとり方針を決めて支援する体制をとった。	重度化と看取りへの対応方針の同意書と共に、状態の変化に応じて方針を関係者で確認し、最終的に主治医の判断の下で看取りへの同意書を交わしている。看取りをした事例から職員の意識も高まり、緊急時の対応マニュアルに沿って看取り介護の体制を整えている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会を受講し、備えている。急変時は、看護師に連絡を取り、指示をもらう。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの防災訓練指導を受けている。年二回の避難訓練を実施している。	昨年11月の開設から、消防署の協力と自主訓練を合わせて3回の火災訓練を実施している。今年の秋頃に消防署協力の下で住民参加の夜間を想定した避難訓練を予定しており、運営推進会議で話し合い中である。全職員が救急救命の講習会を受講している。	運営推進会議の議題で住民協力の役割を明確にして、実際にも活用できるような訓練を期待したい。また、緊急時に住民の協力が得られる体制として、地域を含めた緊急連絡網づくりにも期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、尊重の気持ちを忘れることなく、支援し、個人情報の取り扱い、会議においても、徹底している。	管理者は、利用者を目上の人として尊敬し、言葉遣いが馴れ合いにならないように指導している。個人記録は事務所で保管し、面会簿は個別記録方式でプライバシーに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活リハビリや、行事への参加など、本人の気持ちを伺いながら、決定し、対話から、気持ちを読み取られる様に意識している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の状況をみながら、個別ケアを心がけ、食事は好物を取り入れたり、外出、買い物、起床、就寝時間は、本人のペースに合わせた対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、利用者と一緒に洋服を選び、本人が着たい洋服を着てもらっている。口紅をつけて気分を変えることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切る等のごしらえ、調理の補助、盛り付け等も本人の体調を見てスタッフと共にやっている。片付けも食器洗い、拭き等積極的に参加している。	献立は、職員が利用者の希望を取り入れながら交代で作成している。誕生日には本人の希望の献立にしたり、外食や出前などで食事が楽しめるように工夫している。利用者はお互いに会話をしながら、職員と共に食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量など、記録に残し、把握できるようにし、一人ひとりに合わせた食事の盛り付けを行い、介入している。また、栄養バランスに気をつけ、好き嫌いには代替品を使用し、メニューを作っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け等を行い、本人が出来ないところをお手伝いし、口腔内の清潔に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄パターンで、トイレ誘導し、また、食前食後のトイレ誘導を促している。	排泄パターンを把握して、日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。家族と協力して、本人ができることは自力で行うように声かけをし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気をつけ、味噌汁の具材に野菜を多く入れるなど工夫している。毎日体操等を行い、体を動かしてもらえるように、機会を作っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の好きな方は、できるだけ本人の希望に沿うよう対応している。入浴の好きではない方も工夫した声掛け、環境作りを意識して清潔保持を保つようにしているが決して無理強いはいしない。	毎日午後に入浴を行い、週2回以上は入れるように支援している。希望に応じて午前中や夕方、毎日の入浴も可能になっている。誕生日に温泉での入浴を楽しんでいる利用者もいる。体調に応じて清拭や足浴などを行い、清潔面に配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	暑がりな方、寒がりな方、毎日昼寝をされる方、されない方、個々の一日の状態を介護員が把握し、その日の体調なども見ながら、安眠や休息の支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等を把握し、投薬もセットから服薬まで、誤薬や飲み忘れなどないように、介護員全員で確認し、行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの趣味で、編み物や歌、塗り絵など充実した日々が送れるよう支援している。また積極的にボランティアを活用し、楽しい場面作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人希望があれば、ご自宅へ外泊したり、毎日散歩へ行かれたり、お買い物へ行っている。また町内会の行事などにも参加し地域との交流も図っている。</p>	<p>冬季以外の天気の良い日は毎日散歩する利用者もいるが、ほとんどの利用者は週2～3回本人の希望に応じて近隣の散歩や買い物などの外出を楽しんでいる。車椅子の利用者も週1回以上は散歩できるように支援している。冬季はドライブや大型ショッピングセンターへ出かけての買い物や食事など、月2～3回外出できるように支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で小遣いを持っている入居者は、5人いるので、一緒に買い物に出掛けた際に自分で支払えるように見守り、支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自由に御家族へ電話をかけたたり、お手紙のやり取りができるような場面作りに努めている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には快適に過ごして頂けるようにソファ等の家具の配置に気をつけ、温度計や湿度計を設置し、全体がバリアフリーとなっており、自由に行き来ができ、窓からは木や花々など季節が感じられるような造りとなっている。</p>	<p>玄関や居間に花が飾られ、廊下や壁はユニットごとの花の名前に合わせた淡い色で、清潔感と家庭的な温かさが感じられる。脱衣所は狭いスペースを利用して座る場所を確保して、利用者の入浴時の負担が軽くなるように工夫がなされている。居間はそれぞれの利用者が落ち着ける居場所に配慮して、一人ひとりが安心して過ごせるように工夫がなされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では、仲の良い利用者同士過ごせる場所や、ゆっくり休める場所もあり、利用者のペースに合わせて、生活できるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は利用者が生活しやすいようにベッドの位置やタンスの位置などを本人や家族と相談して決めている。また本人の馴染みなものを置いて頂き、居心地が良くなるよう努めている。</p>	<p>入口のドアは隣室や向かい側と色を交互にして、自分の部屋が認識しやすいような工夫が施されている。室内には使い慣れたベッドや椅子を持ち込み、好みの絨毯を敷いたり筆筒を配置して、利用者が居心地良く過ごせるように配慮がなされている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物は、全体に手すりが設置されており、利用者が安全に自立歩行できるようになっている。またトイレは各階に3つ設置されており、車いすにも対応しているので、近くのトイレを安全に利用できるようになっている。</p>		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウスみずほ館		
所在地	江別市あけぼの町51番13		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成22年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット1Fばら」に同じ
---------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191000082&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191000082&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年7月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム北海ハウスみずほ館の理念である「笑顔で、明るく、やさしく」は、毎日の朝礼で介護員が言ったり、管理者が言ったりして共有をしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	あけぼの町内会に加入して、地域のゴミ拾い、資源回収等に参加している。今年は、町内会の行事に入居者と参加する予定である。又、向かいのケアハウスのぞみの夏祭りに参加することになっている。あかしゃ幼稚園の園児とも交流予定である。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族の方もまだまだ認知症の方の理解をされていない方もいるので、来所したときは入居している方の状況を伝えながら、認知症のことも話をして理解を深めるように意識している。又相談に来た方にも悩みを受け止め、病気の説明とアドバイスをするような体制である。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を設け、利用者の状況、サービスの実際等を報告、話し合いを設けている。特に今回はグループホームの火災についての関心が高く話し合いを行い、町内会の会長さんより町内会と一緒に訓練もする必要があるとアドバイスをうける。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、情報交換、相談、実情等連絡をとり協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成21年11月16日開設のグループホームであり、現在まで身体拘束、玄関施錠は行っていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について話し合いをもち、自分がされた場合どう感じるかを含めて話し合いをしている。今後は外部の研修に参加する体制を設けたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護の制度について完全に理解している職員は一部なので、今後は外部研修の機会と内部研修で理解するように努める。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者が完全に契約の締結、解約の書類関係について理解・納得は難しいが、家族に対しては、十分な説明を行い、理解・納得をして頂いている。疑問点は、いつでも答えられるようになっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けると共に、日頃から利用者、家族の意見は丁寧に傾聴し、運営委員会に伝え、運営にも反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案はあまり聞かれませんが、今後は職員会議、打ち合わせ等で聞くようにして反映させたい。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境を良くし、職員が働きやすい環境づくりを意識している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北海ハウスみずほ館は未経験の介護員も多く、先輩と共に一人ひとりの力量に応じて教育を心掛けている。職員には、法人内外の研修を受ける機会を確保するように意識している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江別市内のグループホームの交流会の打ち合わせ、委員会に参加をしてネットワークづくり、交流する機会を作り、サービスの質を向上をめざし取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>不安な事や要望を聞き、入所後も安心して、生活して頂けるよう入所前に面談を行い、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族とは、何度も面談を行い、ご家族の思いや要望を聞き、安心してサービスが受けられ、信頼関係が築けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームに見学へ来られた際は、他のサービスを利用中の方、御自宅ですと過ごされてきた方等、ご家族が今、困っている事等聞き、どのようなサービスを必要としているのかを考え、その方にあった支援が受けれるよう対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活では、出来る事はお手伝いして頂き、食事の準備や茶碗洗い、片付け等、自分の役割、分担をし、生きがいを見出している。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様の希望、要望を取り入れた支援や、家族が来所された際、御本人の日常生活の様子等を、伝えたり、行事やお誕生会に来て頂くなど、良好な関係を作っている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>自宅にいた時と同様に編み物をされる方、また職員と共に折り紙や塗り絵等の支援をしている。出来た作品は、ホームの壁に飾り、皆さんに見て頂いている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常生活では、状況に応じて職員が介入し、他者との会話等、出来るように支援している。行事のおやつ作りや外出レク、誕生会など実施し、利用者同士の交流が深まるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が家族から相談があった場合や、本人の状況などを把握し、相談や支援に努めている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成時、利用者及び家族に意向を伺っている。ケアプランが達成できるよう支援し、利用者が、希望の生活を送れるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、必要関係機関等に聞き取りを行い、日々の生活場面に於て、本人、来所家族などの会話から情報収集に努めている。本人、家族の協力を得て、フェイスシートの作成をし、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活において、本人、家族から、要望を聞き、一日の生活リズムの把握、体調管理をし、一人ひとりが役割を持って生活が出来るように支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時、利用者及び家族意向を伺っている。ケアプランが達成できるよう支援し、利用者が、希望の生活を送れるように努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、状態の変化等を記載し、職員間で、情報を共有する。さらに、ケア計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎を個別に行っている。希望があれば、コンサート観劇などの外出同行、送迎にも応じている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、ホームの役割を伝える。安全面では、消防の協力を得て、防災、救命の研修を行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	病院への受診時や訪問診療時に本人の訴え、家族の意向を伝え、かかりつけ医の適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者からの訴えや変化があれば、迅速に看護職員に伝え、受診時や訪問診療時に適切な看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、緊急に対応できる様に、脳外科、整形、内科と提携しており、病院関係者と情報交換をしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と重度化した場合の説明、同意書を頂いている。、終末期のあり方の説明をしている。実際昨年度化の方がおり、家族、主治医と連携をとり方針を決めて支援する体制をとった。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会を受講し、備えている。急変時は、看護師に連絡を取り、指示をもらう。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの防災訓練指導を受けている。年二回の避難訓練を実施している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、尊重の気持ちを忘れることなく、支援し、個人情報の取り扱い、会議においても、徹底している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活リハビリや、行事への参加など、本人の気持ちを伺いながら、決定し、対話から、気持ちを読み取る様に意識している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の状況をみながら、個別ケアを心がけ、食事は好物を取り入れたり、外出、買い物、起床、就寝時間は、本人のペースに合わせた対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、利用者と一緒に洋服を選び、本人が着たい洋服を着てもらっている。口紅をつけて気分を変えることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切る等のごしらえ、調理の補助、盛り付け等も本人の体調を見てスタッフと共に行っている。片付けも食器洗い、拭き等積極的に参加している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量など、記録に残し、把握できるようにし、一人ひとりに合わせた食事の盛り付けを行い、介入している。また、栄養バランスに気をつけ、好き嫌いには代替品を使用し、メニューを作っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け等を行い、本人が出来ないところをお手伝いし、口腔内の清潔に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄パターンで、トイレ誘導し、また、食前食後のトイレ誘導を促している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気をつけ、味噌汁の具材に野菜を多く入れるなど工夫している。毎日体操等を行い、体を動かしてもらえるように、機会を作っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の好きな方は、できるだけ本人の希望に沿うよう対応している。入浴の好きではない方も工夫した声掛け、環境作りを意識して清潔保持を保つようにしているが決して無理強いはいしない。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	暑がりな方、寒がりな方、毎日昼寝をされる方、されない方、個々の一日の状態を介護員が把握し、その日の体調なども見ながら、安眠や休息の支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等を把握し、投薬もセットから服薬まで、誤薬や飲み忘れなどないように、介護員全員で確認し、行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの趣味で、編み物や歌、塗り絵など充実した日々が送れるよう支援している。また積極的にボランティアを活用し、楽しい場面作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人希望があれば、ご自宅へ外泊したり、毎日散歩へ行かれたり、お買い物へ行っている。また町内会の行事などにも参加し地域との交流も図っている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で小遣いを持っている入居者は、5人いるので、一緒に買い物に出掛けた際に自分で支払えるように見守り、支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自由に御家族へ電話をかけたり、お手紙のやり取りができるような場面作りに努めている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には快適に過ごして頂けるようにソファ等家具の配置に気をつけ、温度計や湿度計を設置し、全体がバリアフリーとなっており、自由に行き来ができ、窓からは木や花々など季節が感じられるような造りとなっている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では、仲の良い利用者同士過ごせる場所や、ゆっくり休める場所もあり、利用者のペースに合わせて、生活できるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は利用者が生活しやすいようにベッドの位置やタンスの位置などを本人や家族と相談して決めている。また本人の馴染みなものを置いて頂き、居心地が良くなるよう努めている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物は、全体に手すりが設置されており、利用者が安全に自立歩行できるようになっている。またトイレは各階に3つ設置されており、車いすにも対応しているので、近くのトイレを安全に利用できるようになっている。</p>		



目標達成計画

事業所名 グループホーム北海ハウスみずほ館

作成日：平成 22 年 8 月 1 日

市町村届出日：平成 22 年 8 月 10 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	北海ケアサービス(株)の共通理念である「笑顔で、明るく、やさしく」を基本としたケアを日々実践しているが、グループホーム北海ハウスみずほ館のケア目標が作成されていない。	地域・住民との関係をもっと密にして協力、親交を深める必要があるのでケア目標を作成する。	職員全員参加で、グループホーム北海ハウス独自のケア目標を作成する。それぞれ個人で何を基本としてケアをするか意見をメモに書く、言うをまとめて、職員会議等で意見交換をしながら作成する。ユニットに理念とケア目標を提示する。	6ヶ月
2	10	家族が入居者が毎日どういう事をしているのか、何を食べているのか把握していない。	家族、知人、友人が来所された時は、入居者の最近の様子を必ず伝えることを実践する。	月の行事、食事の献立を掲示すると頻繁に来所できる家族は安心感が出るが、なかなか来所できない家族もいらっしゃるので、定期的に事業所だよりを発行したり、行事の予定表・食事の献立表を送付するようにする。	2ヶ月
3	4	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催しているが、意義・内容が家族に理解されていない。	運営推進会議の内容・議事録を家族に理解できるようにする。	会議の案内・議事録を家族に送付する。家族の代表だけでなくもっと気軽に家族が参加しやすいように取り組む。	2ヶ月
4	35	ホーム内での災害対策として、避難訓練は実施しているが、近隣住民の協力、参加の訓練は行っていない。	近隣住民の参加を、是非実施する。	町内会の会長さんをお願いをして、役員会で議題として検討して頂き、了承を得た後、緊急連絡網を作成し、住民協力の下、実際に避難訓練、災害時の訓練を実践するように取り組む。	6ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。